

〇わたしたちは知っているのです。苦難は忍耐を忍耐は練達を、練達は希望を生むということを。 (新約聖書 ロマ書 5:3~4)

〇神よ、わたしを憐れんで下さい。わたしの魂はあなたを避けどころとし、災いの過ぎ去るまであなたの翼の陰を避けどころとします。(旧約聖書 詩篇 57:2)

"悲痛な叫びが聞こえる"

コロナ禍の中で人々の悲痛な叫びの声は日ごとに大きくなっていく。格差社会のひずみが一層絶望的な人々を生み出している。学業を続けられない若者達、職を失い家賃も払えず食べ物もない。医療も受けられない、生活が破綻してしまった多くの人々が自死に追いやられている。子供達の世界も不登校、いじめ、心の病が増えている。こんな時、国民のために働く内閣だと声高に誇り高く、自信満々に宣言する菅総理の姿はあまりにも国民とのかい離は深い。沖縄にとっては安倍さん以上に最悪の内閣誕生により、闇は一層深まるばかりだ。学術会議問題によってこの内閣の本質、本性がはっきりと見えてきた。新自由主義、成果主義、自己責任の押し付け切り捨て、権力の私物化、学問探求の自由を奪い力の支配の下、ひとつの色に染め上げていく、萎縮していく社会が進行していく。国民の悲痛な叫びにも耳を傾けず、軍事費は5兆~6兆と拡大の一途。辺野古新基地を中止しない菅政権、戦後生まれで戦争も知らず、沖縄の歴史も知らないと平然と言う菅総理の空しさに唖然。ウルグアイの故ムヒカ大統領(世界一貧しい大統領)のように国民に仕える貧しい指導者が生れない限り、平和は訪れない。自殺者は減らない。コロナ禍の大苦難の今こそチェンジのチャンス!!日本のムヒカがあちこちに誕生しますように願い、祈ります。

コロナ禍の中で拾った言葉

- ●当り前が当り前でなくなった。人ごとだと思っていた事が自分事となった。自分もホームレスになるかもしれない。一人では何も出来ないということが情けない程にわかった。自分は傲慢だったと気づいた。(テレビで、ある青年)
- ●困っている子供たちを助けることで、この子供達が大人になった時、困っている人を見たら助ける人になると思う。(子供食堂、トニーさん)

子供達はトニーさんの後姿を見ているに違いない。アフリカガーナから来て、日本の子供達を助けているトニーさんの優しさ、愛情を子供達は分っている。きっと大人になったら、トニーさんを思い、困っている人を助けるだろう。血が通った愛の継承が生れていく。平和をつくり地を嗣ぐ希望の人、トニーさんに感謝!!

- ●一人の百歩より、百人の一歩、力を合せて一歩前へ。
- ●小さなパワーを発揮して、ふふっと笑顔になる瞬間を一日ひとつでも見つけていきましょう。見つけるのが大変そうな人にはあなたが笑顔になれるヒントを届けてあげましょう。
- ●他人を利するように、みんなの幸せを考える。

- ●買い物する時の意識が変った。
- ●ライフスタイルのチェンジ、持続可能な循環型社会、循環型ビジネスを考える。
- ●未来から今を考える。今何をすべきか考えること。
- ●大切なものを守る決意が必要だと思う。
- ●政治家も経済学者も、宗教者も医者も、福祉関係者もそれぞれの道で見い出した知恵を出し合って協力し合っていくべき時だ。
- ●世界的コロナ禍は人間の安全保障のあり方を変えた。県民、日本、世界全体が人類の存続を懸けてひとつになるべき時だ。(琉球新報)
- ●弱肉強食型の資本主義を変えなければ世界はもたない。分断と格差の深刻化、コロナ危機は、現在の世界と日本の政治や社会の問題点を暴き出した。ここから何を学び取るかは、私たちに課せられた重要な宿題である。(ジャーナリスト 青木理)
- ●コロナ後の社会は情報技術(IT)を主体とした社会へと転換すると思われている。国民国家を越えた国際連帯への転換点となるのか、あるいは監視的分断社会の訪れになるのか(感染症と文明紹介文)
 ☆予想だにしなかった、戦争とも言える程の世界的コロナ禍大苦難の中から、私達は人間としてのあるべき姿、生き方を取りもどし、真の希望ある世界を生み出していけるのでしょうか。そのために今すべきことは、第一に核兵器禁止条約に調印、原発ゼロを決断、辺野古新基地は中止すること、ここから新しい歩みを今、始めなくてはなりません。待ったなしです。

抗議行動の現場からNo.1

山は削り取られ、見るも無惨な姿になって泣いている。海は土砂が投入されて「息が苦しいよー、死に そうだよー」と叫び泣いている。早く埋め立て中止にしなくては・・・、私たちは安和の入口で、旗を 掲げ、プラカードを掲げ行動する。私はマイクを持ち、ゴスペルを歌い訴えた。

5戦いあらそい、ここにかしこに地をとどろかして、燃えさかる時子らは泣きさけぶ、血を流しつつ主よとどめたまえ、いくさを、いくさを

↑この子供たちの未来を守り 生きるべきいのち 共に生かされ 平和をよろこぶ 世界を望む 主よ祝したまえ、大地を大地を

「この大地は、この海はだれのものですか、未来の子供たちのために守るべきものではないのですか。機動隊の皆さん、警備員の皆さん、防衛局の皆さん、子供がいますか、子供たちの未来のために一緒にこの山をこの海を守っていきましょう。どうか政治に関心を持って下さい。沖縄の歴史を学んで下さい。一緒に未来の子供たちのことを考えましょう。地球という星に一緒に生かされている命ではありませんか、一緒になって平和を求めていきましょう。」私の細やかな訴えは届いただろうか。 傲慢で畏れを知らない人間、ひれ伏すべき神を、天地を創造された神を知らない人間の悲しさ、空しさを思う。然し、決して人間を見捨てない神、人間に自由意志を与え、憐れみの愛に満ちた神はいる。沈黙の中に神はいる。 〇神は言われた「見よ、全地に生える種をもつ草と種をもつ実をつける木をすべてあなたたちに与えよ う、それがあなたがたの食べ物となる。(旧約聖書 創世記 1:29)

〇主を畏れることは知恵の初め、聖なる方を知ることは分別の初め(旧約聖書 箴言9:10)

抗議行動の現場から№.2

コロナ感染対策に心を配りつつ、マスク着用、出来る限りの密、接触を避けるため、ごぼう抜きされる 前に自分から立つようにとのリーダーの指示の下、ねばってごぼう抜きされる人もいるけれど、私は頑 張れない。機動隊に手を引っぱってもらってやっと立ち上ることが出来る。こんな弱さを恵として感謝 しながら座り込んでいる。かつてのように機動隊の若者の顔はマスクとサングラスに覆われて見えな い。私は自分のサングラスをはずして「顔が見えなくて淋しいね」と語りかけた、すると機動隊の若者 は私を見て「やさしい目をしているよ」と語りかけてくれたのだ。嬉しかった!!コロナ禍分断の中で も、人間としての言葉を交わすことが出来たことが嬉しくて"ありがとう"と言って元気をもらった。 おばあちゃんと孫の関係がここにある。機動隊の若者は一緒に平和をつくる仲間なのだ。平和はゲート 前から始っている。

抗議行動の現場からNo.3

〇コロナ禍が来る前頃だった、私たちの仲間の一人が若い機動隊員を罵倒している。それを見かねた先 輩の隊員が私に目くばせして「やめさせてくれ」と訴える。仲間の方は私の忠告を聞いて下さり罵倒す るのをやめてくれた。先輩の隊員は、まだ成りたての隊員が罵倒されて潰されてしまうのではないかと 兄が弟をかばうように心配しているのだ。罵倒は言葉の暴力であって人の心を壊してしまう、決して平 和を作り出しはしない。

〇一昨年の嘉手納第一ゲート前での抗議行動(毎金曜日 朝 7 時~8 時半)でのこと、私達は隊長さん と友達になった。とっても人柄の温かい方だった。私は月桃通信を毎回「ラブレターです」と言って渡 していた。転勤の時が来てお別れとなり淋しくなった。数ヶ月して安和港での行動の折、何と隊長さん がそこに居られて「石原さん元気でしたか」と私の名を呼び声を掛けて下さったのだ。私は隊長さんの 名前を言えないのに・・・。嬉しかった。ウチナーには敵も味方もない、お互いの立場を越えて人とし ての心がつながっている。抗議行動の現場にある温かい出会いに慰めと希望を与えられている。感謝。

- ◎ゲート前トンボ飛び交い秋の空
- ◎戦闘機爆音響かせ空を裂く(嘉手納第一ゲート前にて)

☆埋め立て用土砂県内各地から

県内各地の中の一つに私達のうるま市宮城島があります。私達は現場を視察しました。緑豊かな島の台 地が無惨な土砂の山に変っていました。辺野古埋め立て土砂は山ひとつ分も、現場に立って心が痛み、 言葉を失いました。反対側の伊計島漁港に立って眺めると漁港真ん前の緑の台地が消えてしまい景観が 全く変わること、その上、漁港は汚染され海の環境が悪化し、漁業への影響は甚大であることが分かり ました。何故、これほどまでも沖縄を破壊するのですか、悲しみがこみ上げてきました。私達はこの現 場に立って「反対」を叫び続けるしかありません。

イージスアショア中止の背後にあるもの

秋田と山口へのイージスアショア配備計画が突然中止となりました。驚きと同時に、それならば辺野古 新基地も中止できるのではと、私たちは一抹の望みを抱きました。そして間もなく「敵基地攻撃能力保 有」という言葉が飛び出しました。実は水面下で敵基地攻撃能力保有が議論されていたのです。沖縄、 南西諸島の宮古、石垣、与那国(既に完了)と、自衛隊基地が急ピッチで建設されています。そこに中 距離弾道ミサイル配備が計画されているという情報があります。費用は地上イージスの 2 倍 863 億円、防衛軍事費は 5~6 兆円に増大の一途。アメリカに代って戦争する国へと着々と進んでいます。安全保障政策が憲法解釈を変更して決定され、政府主導で先制攻撃能力保有への道を開いていくことを私 たちは絶対に許してはなりません。それは滅びへの道です。日本人は革命を起こせない民族であり、外 圧によってしか変わることが出来ない民族だとよく言われていますが、沖縄でゲート前に 7 年も座り込んで「反対」を叫び続けている沖縄の民をどうか見て下さい。私たちは沖縄の声が日本中の人々の心を動かしてくれることを切に願って、このコロナ禍の中にあっても闘い続けているのです。そこには「民意こそが政治を動かす」という信念があるからです。ガンジーの言葉に耳を傾けましょう。

《国民にも政府と同じ責任がある。政府や政治家を批判するだけではなく、考えてみよう。人は往々にして、マスコミの報道に振り回され優柔不断に考えを変える。時計の振り子のように、決してとどまることがない。弁のたつ人や、根回し上手な政治家を、つい支持してしまう。国民にも政府と同じ責任があることを、しっかり胸に刻もう。》

「つながる力、うつぐみの会」との連帯

一昨年、うつぐみの会の大野悦子さん(福生市在住)が来沖され、私とのつながり(友人)の中で辺野古との連帯活動が始りました。着物のリサイクルから素敵な手提げ袋、その他の小物など一年目は辺野古基金に130万円の支援が出来ました。また現場や団体の活動支援も出来ました。コロナ禍になってからはマスクを大量に手作りして下さって、多様な着物地の素敵なマスクを皆さんに利用して頂いています。最近は赤マスク運動を頑張っています。赤は止まれ、ストップ、やめろ・・・辺野古新基地ヤメロのシンボルです。月初めの土曜日の結集大会ではうるまの仲間を中心に赤マスクを多くの人がつけて下さいました。コロナ禍の中、結集大会はしばらくはお休みになりました。大野さんは言われます、辺野古に連帯して、マスクを作ることでうつになりそうな日々の中、励まされ、力を頂いていると。連帯は、人と人とがつながり共に支え合って生きる世界、コロナ禍の今、最も必要で、大切なものだと思っています。着物リサイクルマスク、沢山在庫あります。一枚200円いつでも注文受け付けています。

私信―――私共二人元気でおります。後期高齢者としての故障は日々いろいろに変化して、不安や戸惑いもありますが、生かされ守られています。月桃通信は体力、集中力、精神力など、上から与えられる限りの時までと、神に委ねていますので、いつもこれが最後との思いでお届けしています。心からの感謝を込めて。お一人お一人の上に神の御加護をお祈り致します。